ルームエアコン据付工事説明書

室内機	IHF-2204G	IHF-2504G	IHF-2804G	IHF-3604G	IHF-4004G	IHF-5604G
室外機	IHR-2204G	IHR-2504G	IHR-2804G	IHR-3604G	IHR-4004G	IHR-5604G
室内機	IKF-221G	IKF-281G	IAF-2204GV	IVE 3604CM	IAE 4004CV	IAE EGOACV
上至的依	INT-2216	INT-2016	1AF-22046V	1AF-20046V	1AF-40046V	IAF-56046V
室外機	IKR-221G	IKR-281G	IAR-2204GV	IAR-2804GV	IAR-4004GV	IAR-5604GV

安全上の注意

据付工事の前に、この「安全上の注意」をよく読んでから据付してください。

据付工事説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

●据付工事・移設・廃棄は、お買い上げの販売店または据付専門業者に依 頼する

自分で据付すると、火災・破裂・感電・けが・水漏れの原因になります。

●据付工事は、冷媒R32用またはR410A用に製造された専用のツール・ 配管部材を使用し、この据付工事説明書に従って確実に行う 専用の配管部材を使用しなかったり、据付に不備があると、火災•破 裂・感電・けが・水漏れの原因になります。

●据付は、強度を確認し、重量に十分耐える場所に確実に行う 耐荷重不足や取り付けが不完全なときは、機器の落下により、けが の原因になります。

●室外機は、ベランダの手すりの近くに据付しない

子供が上に登り、手すりを乗り越えて、落下事故につながります。 ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術 基準」・「内線規程」、および据付工事説明書に従って施工し、必ず専

用回路を使用する また、電圧は製品の定格電圧に合わせる

電源回路容量不足や施工不備があると、火災・感電の原因になります。

●室内外機間の配線は、途中接続やより線の使用はせず、所定のケー ブルを使用して確実に行う

配線が不完全なときは、発熱・火災・感電の原因になります。 ●室内外機間の配線は、端子カバーを確実に取り付けて配線を固定し、

端子接続部に外力が伝わらないようにする カバーの取り付けが不完全なときは、端子部の発熱・感電・火災の 原因になります。

●据付工事部品は、必ず付属部品または指定の部品を使用する 使用しないと、機器の落下・水漏れ・火災・感電の原因になります。

●エアコンの据付や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以 外の空気などを混入させない 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂によ

●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの 火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●作業中に冷媒ガスが漏れたときは換気をする

冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

●アース工事を行う

アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しない でください。アースが不完全なときは、感電の原因になります。

●浴室など、水がかかったり、湿気が多い場所には据付しない

感電・火災の原因になります。

●電源プラグを差し込むときは、電源プラグ側だけでなく、コンセン ト側にもほこりの付着・詰まり・がたつきがないことを確認し、刃 の根元まで確実に差し込む

ほこりの付着・詰まり・がたつきがあると、火災・感電の原因になり ます。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。

●据付作業では運転する前に、次のことを確認する • 配管接続は確実に取り付け、漏れがないこと

• サービスバルブの弁が開いていること

サービスバルブが閉まった状態で圧縮機を運転すると、異常高圧と なり圧縮機などの部品の破損の原因になります。また接続部で漏れ があると、空気を吸い込むなどして、さらに異常高圧となり、破裂 けがの原因になります。

●ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う • 冷凍サイクル内に空気を混入させない

・ サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管を外す 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、 空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になって、破裂・け がなどの原因になります。

●電源コードは、極端に折り曲げたり、束ねたりしない また、加工・途中接続・タコ足配線はしない

接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災・感電の 原因になります。

●指定冷媒以外は使用(冷媒補充・入れ替え)しない

指定以外の冷媒を使用すると、機器の故障・破裂・けがなどの原因になります。

●室内機を持つときは、前面パネルに手を掛けない 作業中に前面パネルが開き、機器の落下によりけがの原因になります。

●漏電遮断器を取り付ける 漏電遮断器が取り付けられていないと、感電の原因になることがあ ります。

●新築物件・リフォームなどの内装工事や、床面のワックスがけ時には、

ワックスなどの揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや水飛び

の原因になります。作業終了後は、エアコンを運転する前に十分に

小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、火災・故障の原因に

なることがあります。また、お客様には、周辺をきれいに保つこと

●室外機は、小動物のすみかになるような場所には据付しない

/!\ 注意

るけがなどの原因になります。

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生する内容を示しています。

●ドレン工事は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう配管する 屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●フレアナットは、トルクレンチを使用し、指定の方法で締め付ける フレアナットを締め付け過ぎると、長期間経過後フレアナットが割 れ、冷媒漏れの原因になります。

●据付作業では手袋*を着用する

着用しないと、部品などでけがをすることがあります。(*軍手など の厚手の手袋)

●室外機の吸込口やアルミフィンに触らない けがの原因になります。

この家庭用エアコンには、GWP(地球 温暖化係数)が675のフロン類(R32) が封入されています。フロン類が排出さ れると地球温暖化が進みます。移設・修理・

フロン類に関するお問い合わせは、アイ

リスコールへお願いいたします。

廃棄するときは、フロン類の回収が必要

据付工事完了後、「12 試運転」と「13 点検」の確認を行い、 本説明書をお客様にお渡しください。

また、本説明書は、取扱説明書とともに保管していただくよ

冷媒配管について

配管キットを使用するとき

・必ず、配管肉厚が0.8mmのものを使用してください。 一般の銅管を使用するとき

エアコンを運転しない

換気を行ってください。

を依頼してください。

・ 銅管はJIS H3300「銅および銅合金継目無管」のC1220Tタイプで、内 部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚は0.8mmのものを使用してく

・アルミ材を使用した冷媒配管は使用しないでください。

フレアナットおよびフレア加工 ・フレアナットはエアコン本体付属のものに交換してください。

●このエアコンは、冷媒R32を使用しています。

据付にはR32もしくはR410A対応の工具を使用してください。

据付場所の選定

■ 据付場所の選定 室内ユニット

- ・据付板の周囲に「穴あけ寸法図」に示した間隔を取れる場所 ・吸込口、吹出口の近くに障害物のない場所
- 重量に耐える場所
- ・直射日光が当たらない場所
- ・ 冷風(温風)が部屋全体に行きわたる場所

うに、お客様に依頼してください。

- ・ 高周波機器、無線機器等の影響を受けない所
- テレビやステレオなどの機器から 1 m以上離す(映像の乱れや雑音が 入ることがあります。)
- カーテンボックス、カーテンレールから離す
- ・エアコン(吹き出し口)と火災警報器は、1.5m以上離す ・浴室など、水がかかったり、湿気が多かったりする場所は避ける
- ・室内ユニットの下面から床まで1.8m以上離す

室外ユニット

- ・室外ユニットの周囲に、右図で示した間隔を取れる場所 ・強風の当たらない場所(特にビルの屋上では、風が強く室外ファンが
- 破損することがあります。) ・風通しがよく吸込口・吹出口の近くに障害物のない場所
- ・ユニットの重量に十分耐える場所で水平位置を保てる場所
- ・運転音や振動が増大しない場所
- 可燃性ガスの漏れるおそれのない場所 ・排水されたドレン水が流れても問題ない場所
- ・接続配管の長さ、室内外ユニットの許容落差は次の通りとすること

機種名	接続配管長さ					
IHF-2204G/ IHF-2504G/ IHF-2804G/ IHF-3604G/ IHF-4004G/ IKF-221G/ IKF-281G/ IAF-2204GV/ IAF-2804GV/ IAF-4004GV	15m (ただし10m以上は冷媒補充が必要)	10m				
IHF-5604G/IAF- 5604GV	25m (ただし10m以上は冷媒補充が必要)	10m				
※冷媒は、延長1m当たり20g補充してください。						

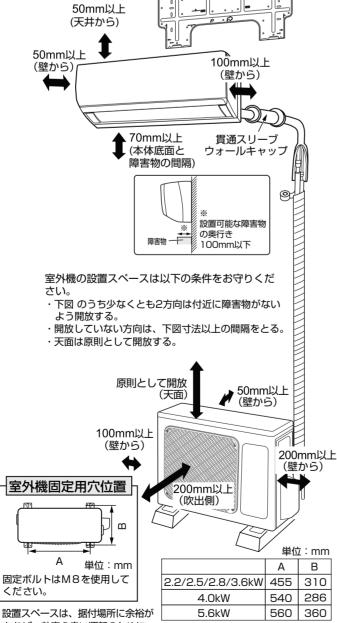
・雨や直射日光が当たる場所への据付には、市販の「日除け屋根」をご 利用ください。

以下のような所は避けてください。

- ・塩害地や、ビル上層部など、常時強風が当たる所
- ・油・蒸気・油煙・腐食性ガスの発生する所 ・温泉地のように硫化ガスの発生する所

お願い

公団アパートやマンションなどの鉄筋コンクリート造建築物で、室 外機を、ベランダ・天井から吊り下げて据付するときは、室外機と天 井のすき間を80mm以上空けてください。 また、室外機と据付具の 間に防振ゴムを入れてください。



・設置スペースは、据付場所に余裕が あれば、効率の良い運転のために

できるだけ広く取ってください。 ・市販の配管カバーを取り付ける際は、管を押さえつけないようにご注意 ださい。(水漏れ等の原因)

アイリスオーヤマ株式会社 〒980-8510 仙台市青葉区五橋 2 丁目 12番1号 ホームページ http://www.irisohyama.co.jp/ 製品及び修理に関するお問い合わせは 0800-919-07

受付時間 平日9:00~17:00、土・日・祝日9:00~12:00/13:00~17:00

(年末年始・夏期休業期間・会社都合による休日を除く) FAX でのお問い合わせは(通信料無料) 0800-888-2600 Web からのお問い合わせは https://www.irisohyama.co.jp/support/

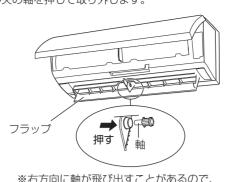
110520-RKK-HOR-01

本体パネル・前面パネル・フラップの取り外しかた

※通常、本体パネル・前面パネル・フラップを取り外す必要はありません。取り外す必要があるときは、以下の手順で行ってください。 ※本体パネル・前面パネル・フラップを取り外すときは、運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ フラップの取り外しかた

① 中央の軸を押して取り外します。



※右方向に軸が飛び出すことがあるので、 手で軸を受けながら、外してください。

② 左→右の順に軸を外して、フラップを取り外します。

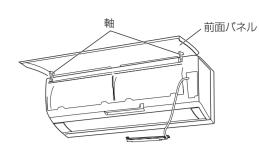


■ 前面パネルの取り外しかた

① ねじ (2本) を外し、表示パネルを前面パネルから取り外します。

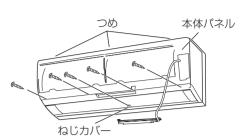


② ほぼ水平位置まで前面パネルを開きます。 ③ 左右の軸を内側に押して外し、前面パネルを手前に引き抜きま



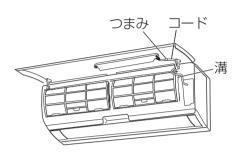
■ 本体パネルの取り外しかた

ねじ(5本)を外し、本体パネルを取り外す。 上面のつめ(3か所)を押さえてロックを外し、手前に引き抜きま



■ 本体パネル・前面パネル・フラップの取り付けかた

取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。 表示パネルのコードは、つまみ(2か所)と溝で、固定してくださ



据付後の取り外しかた

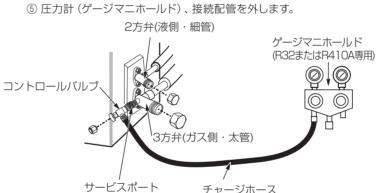
■ 室内ユニット

・本体底面の▼印部分(左右2カ所)を押し上げ、つめを浮かせながら 本体を手前に引く。本体底面のつめが据付板から外れます。



■ 室外ユニット

- ・地球環境保護の観点から、ポンプダウン(冷媒回収)をしてから 取り外します。
- ① 3方弁のサービスポートにコントロールバルブを介してチャージ ホースと圧力計(ゲージマニホールド)を取り付けます。
- ② エアコンを強制冷房運転させます。(5~10分間程度) 強制冷房運転は、「12 試運転 | を参照してください。 暖房運転ではポンプダウンはできません。
- ③ 2方弁を全閉にします。
- ④ 圧力計が、ほぼOMPa (Okgf/cm²) になるのを確認後、すみや かに、3方弁を全閉にし、エアコンの運転を停止させます。 長時間、運転し続けると故障の原因になります。



ポンプダウン作業では、次のことを確実に行ってください ● 冷凍サイクル内に空気を混入させない

● サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止さ せ冷媒配管を外す

圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配 管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常 高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。

■ 既設配管を再利用のときの注意 ・古いエアコンを取り外すときは、必ずポンプダウンを行い、冷

- 媒・冷凍機油の回収を行ってください。 ・配管肉厚が0.8mmあること(JIS規格の配管)
- フレアはR32対応に切り直してください。 • ポンプダウンができないとき・配管内が極端に汚れているとき は、洗浄するか新しい配管に交換してください。

・施工には、R32対応の工具を使用してください。

- 一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このとき は、買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してくださ
- ・ 配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などがないか、点検してくだ さい。
- 配管以外の部材(断熱材や配管支持部材など)も再使用可能か点 検してください。
- 再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してくださ

こんなときには

室外機が運転しない

・ユニット間配線の接続不良の可能性があります。接続の再確認をしてください。

同梱付属部品

室内機用 (室内機に同梱)

室外機用 (室外機に同梱)

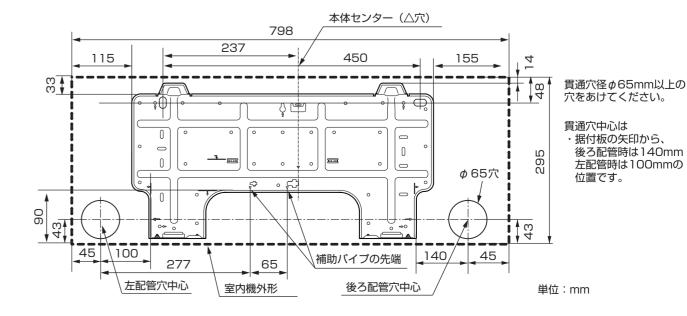
1個

⑦ ドレンロ

_				
	① 据付板		② 据付板取付ネジ (長さ25mm)5本	③ リモコン
	④ 乾電池 (単4形)	2本	⑤ フレアナット	⑤ フレアナット2.2~4.0kW:φ9.52mm(3/8")5.6kW:φ12.7mm(1/2")1個

付属品 個数 1 据付工事説明書 取扱説明書 保証書 1 1 音声リモコン ※ USBケーブル ※ 取付ブラケット ※ 電源アダプター ※ 2 取付用ねじ※ 音声操作キーワード※ ※ GVシリーズのみ付属

穴あけ寸法図



据付工事

1 据付板の取り付け・配管穴あけ

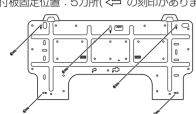
■ 据付板の取り付け

据付板は水準器をあてて、水平に取り付けてください。



壁に直接取り付ける場合

・取付ねじを5本以上用いて固定してください。 (5本同梱しています。必要に応じて追加してください。) 据付板固定位置にねじ止めすることをおすすめします。 据付板固定位置:5カ所(今 の刻印があります)



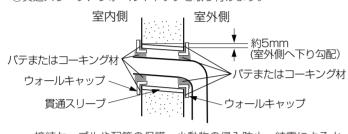
・ 板壁内の構造物(間柱、桟等)を利用し取り付けてください。 間柱等をさがすのが困難な場合は、ボードアンカー(市販品)等をご 使用ください。



- 壁が石膏ボードの場合、壁厚に応じた樹脂製のカサ式ボードアン カーをご使用ください。ねじ込み式は使用しないでください。 (保持強度が極端に落ちる場合があります。)
- ・取り付け後、手で引っ張って強度を確かめてください。 ・住宅公団等、埋込みボルトがある場合は、公団用取付穴を利用し
- て取り付けてください。 回り縁と鴨居につける場合
- ・取付アングル(市販品)を使用してください。

■ 配管穴あけ

①壁に穴を室外側に下り勾配にあけます。(ドレン排水のため) ②貫通スリーブ、ウォールキャップを取り付けます。



- ・接続ケーブルや配管の保護、小動物の侵入防止、結露による水 漏れ防止のために、必ず使用してください。
- ・メタルラス、ワイヤラス等、金属を使っている壁は、必ず使う ように電気設備技術基準で定められています。 ③すき間をパテまたはコーキング材でシールします。
- ・化粧力バー仕上げの場合も必要です。
- ・シールが不完全な場合、雨水の浸入による壁内部の腐食や外気 の流入による結露の原因となります。

2 電気工事

- ・ 電源はルームエアコン専用とし、エアコン専用コンセントを電源
- コードの届くところに据付してください。 コンセントは新しいものを使用してください。
- ・プラグの交換や延長などの電源コード改造や、延長コードの使用
- は絶対にしないでください。故障や火災の原因になります。 ・電源コードをビニールテープなどで巻いて収納しないでください。

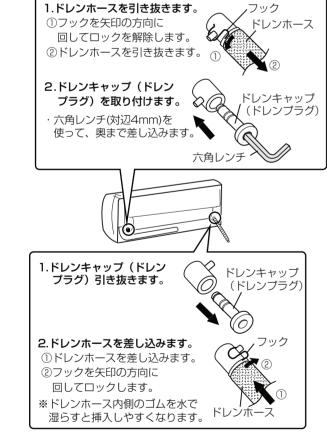
・電源電圧を必ず確認してください。

電源コードの長さ				電源について				
電源方	式	左出し	右出し	電源方式	コンセン	ト定格・	マーク	·形状
単相100V	(1)	1.1m	1.8m	単相100V	100V	15A	(=)	П
単相100V	(1)	1.1m	1.8m	単相100V	100V	20A	(1)	41
単相200V	- -	1.1m	1.8m	単相200V	200V	15A	(5)	a

・電源回路容量に十分余裕のあるように配線工事を行ってくださ い。また、機種と据付場所によっては感電防止のため漏電遮断器 の取り付けが法規上必要な場合があります。

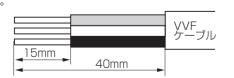
3 ドレンホースの付け替え(左配管の場合)

左配管の場合、本体パネルを外して、ドレンホースを付け替えてく



4 室内機のユニット間配線

①ユニット間配線を加工します。 ユニット間配線は、 ϕ 2.0mm VVFケーブル(3心)を使用して ください。



のぞき穴

·端子板

- 外皮

②前面パネルを開け、端子板カバーを外します。 ③固定ねじを取り外し、コードクランプを外します。

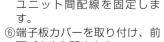
・ ユニット間配線の心線を、 端子板の奥まで確実に挿入 してください。(のぞき穴

④ユニット間配線の接続をする。

から心線が見えていること を確認してください。) ・端子番号に注意してくださ

い。誤配線すると内部の制 御回路が破損したりしま

⑤コードクランプと固定ねじで ユニット間配線を固定しま





固定ねじ



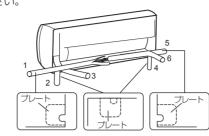
- より線及びø1.6 mm VVFケーブルは使用しないでくだ
- さい。接触不良の原因となります。 ● VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでく

ださい。 接触不良を起こして、火災の危険があります。

5 配管の引き出し・室内機の取り付け

■ 配管の引き出し

1、2、4、5の方向のときは、プレートを切り取ってください。 ・切り取り時、本体内部の配線(電源コード、ユニット間配線)、ドレ ンホース、補助パイプを傷つけないように注意してください。ま た、切り取り後は、これらを傷つけないよう、鋭い切断面は処理 してください。



後・右・下配管の場合

①ドレンホース、補助パイプ、ユニット間配線を配管穴に通します。 ドレンホースはトラップのないようにしてください。 左配管の場合

①ドレンホースとドレンキャップを付け替えます。



製品のドレンホースを必ず使用してください。 ②配管を接続します。「8配管接続」を参照 接続後、石けん水で冷媒漏れを確認してください。

③配管とユニット間配線をテープで止めます。 断熱材のスリット部を上向きにして、すき間のないように密着さ せてビニールテープで巻いてください。

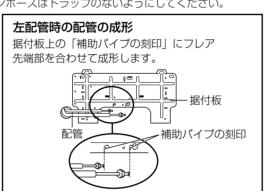




⑤ドレンホースと配管、ユニット間配線をまとめて配管穴に通します。 ドレンホースはトラップのないようにしてください。

ユニット間

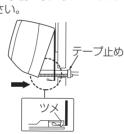
配線



■ 取り付け

①本体上部を据付板に引っ掛けます。 ②本体下部を押し込んで固定します。

固定後、本体下部を手前に引っ張り、確実に本体が固定されてい るか確認してください。





電源コードが余った場合、エアコン背面のスペースのある

所にゆったりと収納してください。

● 小さく折りたたんだり狭い所へ押し込まないでくださ い。また、本体と据付板(とくに本体裏面のつめと据付 板の受け部の間)にはさまないよう注意してください。 電源コードが破損し、発熱・火災の原因になります。 ● 電源コードを室内機の上面にのせないでください。

6 室内機のドレン工事

ドレン工事は、ドレン水が流れやすいように下り勾配をつけてくだ さい。(2°以上)

・ドレンホースを延長する場合は、内径16mmのホースを使用して ください。

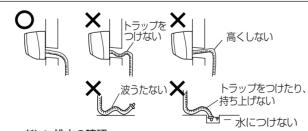


ドレンホースが持ち上ったり、トラップをつけたり、ホースの先 が水につからないよう注意してください。水漏れ、異音等の原因

・延長したドレンホースが室内を通るときは、断熱材を巻いてくだ

ドレンホースにトラップがあると、高気密住宅などで強い風をうけた

時や換気扇などを使用した場合、「ポコポコ」という音が出ることがあ ります。トラップの修正をしてください。修正が困難な場合は対応部 品として、エアコン用逆流防止弁(市販品)を取り付けてください。

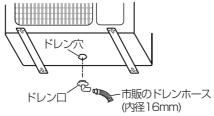


ドレン排水の確認 ①前面パネルを開け、エアーフィルターを外します。 ②水を熱交換器につたわらせて、ゆっくり注入します。 ③ドレンホースから水が流れていることを確認します。



▼ 室外機のドレン工事

暖房運転時、除霜等により室外機ドレン穴から水が流れ出ます。 排水処理をする場合はドレン工事を行ってください。



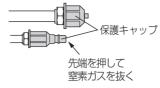
寒冷地でのお願い

寒冷地ではドレン水が凍結するので、ドレン工事は行わないでくだ

寒冷地: 日中でも外気温0℃以下の日が2~3日連続する地域

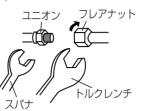
8 配管接続

- ・接続配管は、「JIS H3300」に定める「リン脱酸銅継目無管(C1220T)」 で、配管肉厚は0.8mmのものをご使用ください。
- ・配管内への異物(油分、水分等)混入に十分ご注意ください。
- 通常は室内機側、室外機側の順に配管接続してください。 ・フレア面の内面のみ冷凍機油を塗布してください。
- ・室内機の配管にフレアナットは取り付けられていません。 付属のフレアナットをお使いください
- ・室内機に窒素ガスが封入されています。細管側の保護キャップ先 端をドライバーで押して窒素ガスを抜いてから、保護キャップを 取り外してください。



①フレアナットは、最初の3~4回を手で締め付けます。 ②トルクレンチを使用し、指定の締付トルク値公差内でしっかりと

トルクレンチとスパナを用い、2丁スパナ方式で締め付けてくださ い。(締め付け不足、及び締め付け過ぎは、冷媒漏れや変形・破損 の原因となります。)



フレアナット締付トルク

		2配	幅	適合
		ユニオン	ナット	トルクレンチ
細管側	φ6.35mm(1/4")	14mm	17mm	16±2N·m
太管側	φ9.52mm(3/8")	17mm	22mm	38±4N·m
八百则	φ12.7mm(1/2")	19mm	24mm	50±5N·m

《既設配管再利用時のご注意》

- 配管肉厚は0.8mmが前提条件です。(JIS規格の配管)
- ・フレアはR32/R410A用に必ず再加工してください。(下記「配管 のフレア加工について」参照)

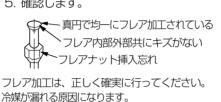
90°→

配管のフレア加工について

- 1. パイプカッターで配管を切断します。 切断面は直角にしてください。
- 2. バリ取りします。 切紛を管内に入れないようにしてください。
- 3. フレアナットを挿入します。 フレアナットは必ずエアコン本体のものを
- 使用してください。 4. フレア加工します。 ダイスからの出し代(A)を正しくセット してください。

出し代(A): 0~0.5mm (R32またはR410A用フレア工具の場合)

5. 確認します。



・古いエアコンが故障等により、ポンプダウンができない場合や配 管内が極端に汚れている場合は、配管洗浄するか、新しい配管に 交換してください。

9 エアパージ・冷媒漏れ確認

■ エアパージ

地球環境保護の観点から、エアパージは真空ポンプ方式でお願いし ます。

①太管側(3方弁)のサービスキャップを外します。 ②3方弁のサービスポートにコントロールバルブを介してゲージマニ

ホールドのチャージホースを接続します。 金具のついている側(虫ピンを押す側)を接続してください。

③ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開にします。 ④真空引きを10~15分間行い、連成計が -0.1MPa (-76cmHg)

になっていることを確認します。 ⑤ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にします。 ⑥真空ポンプを停止します。

1~2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認 してください。(接続部の漏れ確認のため)

⑦細管側(2方弁)、太管側(3方弁)の弁キャップを外します。

⑧2方弁の弁棒を六角レンチ(4mm)を使って、反時計方向に90°開

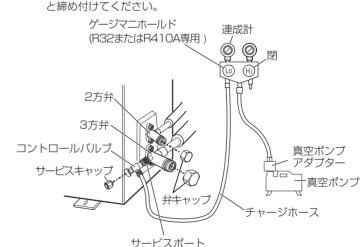
き、5秒後に閉じ冷媒漏れの確認します。

⑨サービスポートからゲージマニホールドを外します。

⑩2方弁を全開にします。 (当たりがあるところまで回してください。)

⑪3方弁を全開にします。 (当たりがあるところまで回してください。)

⑫2方弁、3方弁の弁キャップとサービスキャップを取り付けます。 トルクレンチを用いて、指定の締付トルク値公差内で、しっかり



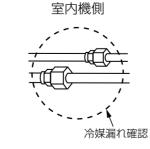
弁キャップ締付トルク

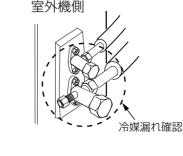
キャップの2面幅

		キャップの2面幅	適合トルクレンチ					
細管側	ϕ 6.35mm(1/4")	19 mm	24±3N·m					
太管側	φ9.52mm(3/8")	19 mm	24±3N·m					
太管側	φ12.7mm(1/2")	24 mm	24±3N·m					
サービスキャップ締付トルク								

17 mm ■ 冷媒漏れ確認

- 室内機側はフレア部周辺を、室外機側はフレア部周辺・弁棒周辺
- を、石けん水を塗布してチェックしてください。 チェック後は、ふき取ってください。
- ・リークディテクターで冷媒漏れ確認をする場合はHFC冷媒対応の ものを使用してください。



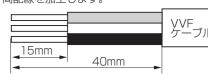


適合トルクレンチ

 11 ± 1 N·m

10 室外機のユニット間配線

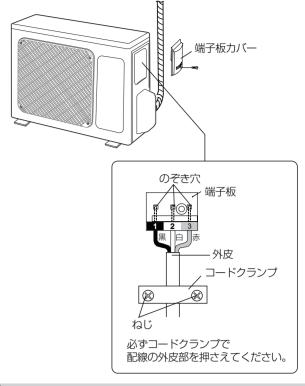
①ユニット間配線を加工します。



②端子板カバーを外します。

⑥端子板カバーを取り付けます。

③ユニット間配線の心線を端子板の奥まで確実に挿入します。 のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。 配線は必ず、室内機の端子板の番号と合わせてください。 ④ユニット間配線の外皮をコードクランプとねじで固定します。 ⑤ユニット間配線が確実に固定されているか確認します。





■ アース工事

アース端子

アース線

VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでくだ さい。 ● 中継器を使用すると接触不良を起こして、火災の危険が

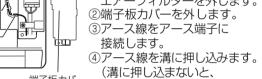
11 アース工事・漏電しゃ断器

必ずアース工事を行ってください。

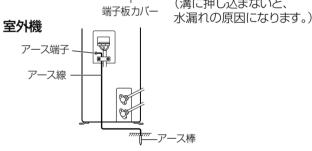
アース工事や漏電しゃ断器の取り付けは、「電気設備に関する技術 基準」および「内線規程」に従って行ってください。

(行っていないと、通電時にエアコン本体に触れたとき、電気を感じ る場合があります。)

- ・アース工事は、電気工事士の資格がある方が行ってください。 ・接地抵抗は100Ω以下にしてください。(漏電しゃ断器を取り付け
- た場合は500Ω以下にしてください。) アース棒およびアース線は市販品を使用してください。
- 室内機・室外機のいずれか一方に対し、アース工事をしてください。 ・製品に取り付けているアース端子以外のねじは絶対に使用しない でください。(配管の損傷により、冷媒が漏れる原因となります。)
- 室内機 (2.2、2.5、2.8、3.6kW機種に適用) ①前面パネルを開け、



エアーフィルターを外します。



■ 漏電しゃ断器について

- ・万一漏電したときの感電防止のため、漏電しゃ断器を設置してく
- ・漏電しゃ断器は、定格感度電流30mA以下、動作時間0.1秒以下 の電流動作高感度高速タイプを使用してください。

12 試運転(必ず行なってください)

試運転は、15分以上行い、風が冷えていることを確認してくださ

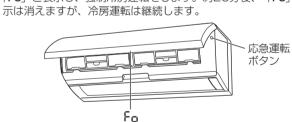
「E6」表示: ユニット間配線が正しいか。

・強制暖房運転はできません。

「PH」表示:電圧が正しいか。

ートをお客様にお渡しください。

①本体の応急運転ボタンを5秒以上押し続けます。 ・「Fo」と表示し、強制冷房運転をします。約25分後、「Fo」の表



②停止するときは、本体の応急運転ボタンをもう一度押します。

試運転中に下記症状になった場合は、ご確認ください

冷風が出ない:2方弁、3方弁が開いているか。 13 点検

場所です。

した。

・据付工事完了後、□の中に✔印を入れて確認し、このチェックシ

- □ 据付場所は、エアコンの重量に十分に耐え、騒音や振動が増大しない
- □ 電源は専用回路を使用し、電源電圧に問題のないことを確認しまし
- □ 電源コードの中間接続や延長コードの使用、タコ足配線は行っていま
- □ コンセントと電源プラグにがたつきはありません。 □ 内外接続線の中間接続は行っていません。
- □ アース線の接続は確実に行いました。 □ 壁穴部のシールは確実に行いました。
- □ 配管接続部のリークテストを行い、冷媒が漏れていないことを確認し
- □ サービスバルブの弁棒は全開にしました。

□ 配管は断熱材でしっかり覆い、テープでシールしました。

□ 室内機に水を流して、確実に排水されることを確認しました。 □ 試運転を行い、冷房・暖房運転が正常であることを確認しました。 □ 取扱説明書をもとに、お客様に正しい取扱方法と運転方法を説明しま

確認日: 月 \Box 確認者: 工事(施工)会社名:

